

環境適応」講習会について

講習会では、可能な限り現在の臨牀的課題に即したテーマをとりあげ、セラピストの労働時間や職場環境などを考慮した治療場面を提案することを目標にしています。

したがって、理論的・技術的な背景はボバースアプローチに基づいていますが、それぞれを伝達あるいは紹介するためのものではありません。

片麻痺者が抱えている機能的課題を出来る限り具体的に列挙して、それぞれに対応した経験をそのままの形で紹介するような構成を目指しています。ただし、機能的課題の遂行には正常な知覚・運動統合過程が不可欠であることから、個体、環境、課題間の相互関係に着目し、神経生理をはじめ、生態心理学、認知科学、発達学、文化人類学などさまざまな分野の知見を援用して、それらの臨床経験を解釈しつつ応用展開の可能性も探っています。

リハビリテーション医療をめぐる環境はめまぐるしく変化しています。その中で個別的な障害状況や回復の可能性とは無関係に早期の退院が迫られ継続した十分な医療を受けづらい環境が出来つつあります。一方セラピストにとっても、一個の医療技術者として自らの医療行為に確信をもち研鑽に励む環境は確実に狭まりつつあると考えます。そのような状況であるからこそ自覚ある多くのセラピストが自らの技術を点検し充実させて後輩に引き継ぐ必要がますます高まっているものと考え、講習会という形で呼びかけております。

環境適応Eコース：ACTIVITY

Activity（対象物の直接的あるいは介在物を通じた操作）は随意運動の主要な側面だと言えます。これらの行為を通じて個体は自己と環境との関係を調整していると考えられます。姿勢や運動の制御は、記憶やそれに基づく情動の変化、あるいはその瞬間における前後関係（文脈）をも含めて結局はその周辺環境とそこに発生する適応課題との相互関係において組織されています。そして、その関係はとどまることのない循環関係あると言えます。

中枢神経系の損傷によって発生する問題は、適応上の困難性として片麻痺者のあらゆる課題遂行の中で不経済で効率のわるさとして現れています。講習会ではActivityの中にある、その循環的な相互作用関係をより密に（具体的、実在的）に、より広い範囲に変化させる事を目指した介入を紹介します。日々の治療場面で何等かの対象操作を行う理由の大部分はそのような理由があるからだと考えています。